

第43回住総研シンポジウム
東日本大震災復興支援事業

受け継 がれる 住文化

和の住まい・和の住生活

受け継がれる住まい vol.2

会場 和敬塾本館
(旧細川侯爵邸)

東京都文京区目白台 1-21-2

2015年 10月9日(金)

見学会 11:00 ~ 12:00 / 講演会 13:30 ~ 17:10

参加費：見学会 1,000円

講演会 一般 1,000円 学生 500円

定員：見学会 20名 講演会 70名 (共に先着順)

和の住生活の基本となる和室や床座を中心に、この継承の問題を掘り下げてみたい。すなわち、伝統性の継承の問題の所在を端的に示す一例が、和室離れや床座生活離れの現象ではあるまいか。畳敷きで床の間を備えた和室や襖・障子の建具、あるいは庭と連続する開放性といった空間特性、また、こうした床座を基本とした生活スタイルの中で生まれた伝統的生活技法といったものが、今後のわれわれの生活の中でどう継承されていくのか。畳ひとつを取り上げても、畳敷の減少から畳の需要は減り、イグサ生産の産業は縮小化され、人工的な化学畳へと移行せざるを得ない状況をどう受け入れていくべきかといった様々な問題へと波及していく。このことは、伝統の継承の意味を考えさせる。伝統的形式を守ることと同時に伝統を死んだものとせず、生きたものとして現代に則したものに発展させることも継承のひとつの形であるように思うからである。和の住文化の継承の問題は、深く複雑であるが、拡散することなく議論できればと考えている。

内田 青蔵
神奈川大学教授

受け継がれる住まい調査研究委員会委員長

見学会講師

趣旨説明：内田 青蔵 (神奈川大学 教授)

講演：竹原 義二 (無有建築工房 主宰)

「和の住文化の継承とその実践」

木村 忠紀 (株式会社木村工務店 代表)

「棟梁から見た伝統建築の魅力と継承」

梅本(切原) 舞子 (千葉大学大学院 特別研究員)

「床上文化と和の継承」

碓田 智子 (大阪教育大学 教授)

「伝統建築文化と住教育」

コーディネーター：松本 暢子 (大妻女子大学 教授)

主催：一般財団法人 住総研

受け継がれる住文化

和の住まい・和の住生活

内田 青蔵

神奈川県工科大学建築学科 教授

1953年秋田県生まれ。75年神奈川県工科大学建築学科卒業、1983年東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻博士課程満期退学。工学博士。2009年より現職。1994年日本建築学会奨励賞(論文)受賞、2004年日本生活学会今和次郎賞受賞。2012年日本生活文化史学会賞受賞。専門は日本近代住宅史。2011年より住総研研究運営委員会委員。主な著書に『お屋敷散歩』河出書房新社(2011)、『図説・近代日本住宅史 新版』鹿島出版会(2008)*共著、『「間取り」で楽しむ住宅読本』光文社(2005)、『同潤会に学ぶ』王国社(2004)など、また、監修として『近代日本生活基本文献集』日本図書センター(2012)など。

竹原 義二

無有建築工房 主宰

1948年徳島県生まれ。建築家石井修氏に師事した後、1978年無有建築工房設立。2000～13年大阪市立大学大学院生活科学研究科教授。現在、摂南大学理工学部建築学科教授。30余年の設計活動の中で、住宅を中心に180を超える作品を手掛け、日本建築学会賞教育賞・村野藤吾賞・都市住宅学会業績賞・こども環境学会賞など多数受賞。著書に「無有」(学芸出版社)、「竹原義二の住宅建築」(TOTO出版)、「いきている長屋」(編著・大阪公立大学共同出版会)

木村 忠紀

株式会社木村工務店 代表/京都府建築工業協同組合 理事長

1946年生まれ。2010年「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会に参加。堂宮と町家の仕事に従事。伝統木造に関する法的な環境整備のための活動を行っている。主な著書に、『木の住まい』2014年8月共著、『準防火地域に建設可能な京町家様式外部部材』『NPO 木の建築』10(2004)共著、『町家の合法的な新築を目指して』『木材工業』680(2003)共著など。

梅本(切原) 舞子

千葉大学大学院工学研究科 日本学術振興会特別研究員 RPD

大分大学工学部福祉環境工学科卒業。同大学院環境工学専攻博士課程修了。博士(工学)、一級建築士。有明工業高等専門学校建築学科助教を経て、2011年より千葉大学小林秀樹研究室にて研究に従事。2014年より現職。2012年より千葉大学工学部非常勤講師。専門は建築計画、住環境計画。卒業論文より一貫して住宅の容容過程と現代的課題に関するテーマに取り組み、近年はセーフティネット住宅政策の研究にも着手。恩師の鈴木義弘指導の下、居間中心型急増を発見した研究成果を発表し、2009年住宅総合研究財団研究選奨を受賞。

碓田 智子

大阪教育大学教育学部教養学科 教授

大阪市立大学大学院生活科学研究科博士後期課程単位取得満期退学、博士(学術)。1995年福井大学教育学部(現教育地域科学部)助教授。2002年大阪教育大学教育学部助教授。同准教授を経て、2010年より現職。2015年日本建築学会教育賞(教育貢献)受賞。主な著書に『現代住宅研究の変遷と展望』丸善(2009)共著、『地域の住まい学習』ドメス出版(2007)、『歴史系博物館を活用した住教育の現状と少子高齢社会における展開に関する実践的研究』第一住宅建設協会(2007)共著、『地域からの住まいづくり』ドメス出版(2005)共著。

松本 暢子

大妻女子大学社会情報学部社会情報学科 教授

日本女子大学家政学部住居学科卒業。東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。東京都立川短期大学講師、和洋女子大学講師を経て、1992年より大妻女子大学社会情報学部専任講師。大妻女子大学社会情報学部助教授を経て、2004年より現職。主な著書に『格差社会の居住貧困(住宅白書2009-2010)』ドメス出版(2009)共著、『まちづくりキーワード事典 第3版』学芸出版社(2009)共著、『住まいの100年』ドメス出版(2002)共著、『まちづくりの科学』鹿島出版会(1999)共著など。

■ 申込方法 (2015年8月17日(月) から受付開始)

住総研 HP (http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusokensympo_43.html)

または、下記にご記入の上、FAXでお申し込みください。

■ 申込締切 10月5日(月) 定員 見学会 20名 講演会 70名 (共に先着順)

■ 見学会の集合場所など詳細については、ご参加いただく方にご連絡いたします。

■ お問い合わせ

一般財団法人 住総研

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 4-29-8

TEL:03-3484-5381/FAX:03-3484-5794

e-mail:sympo@jusoken.or.jp

■ 会場：和敬塾本館 (旧細川侯爵邸)



このシンポジウムは継続職能研修(建築士会 CPD) 認定プログラム(3単位申請中)です。

今年度住総研では「受け継がれる住まい」を重点テーマとし、様々な活動を行っています。研究助成のほか、住総研シンポジウムの開催に加え、当財団図書室でも関連資料を揃えております。当財団ホームページにて関連資料リストを掲載しておりますのでご覧ください。

- ・ JR 山手線「目白駅」より都営バス新宿駅西口行(白61)7分
- ・ 東京メトロ有楽町線「江戸川橋駅」より都営バス練馬車庫行(白61)5分
- ※いずれも「目白台三丁目」下車 40M
- ・ 東京メトロ有楽町線「護国寺駅」徒歩 10分

参加申込み

締切 10月5日(月)

見学会

講演会

(参加を希望するものに☑を記入してください)

ふりがな
お名前

ご所属 (一般 学生)

ご連絡先 (ご所属 ご自宅)

(〒 -)

e-mail アドレス

TEL

FAX

住総研 FAX : 03-3484-5794